

(様式6)

Batchimeg Tsedenbal氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Human papillomavirus genotyping among women with cervical abnormalities in Ulaanbaatar, Mongolia.

(モンゴル国ウランバートル市女性の子宮頸部病変におけるHPV感染とその亜型の解析)

International Journal for Infectious Diseases 77:8 ~ 13, 2018.

Batchimeg Tsedenbal, Tomomi Yoshida, Bayarmaa Enkhbat, Uyanga Gotov, Enkhtuya Sharkhuu, Masanao Saio, Toshio Fukuda

論文の要旨及び判定理由

モンゴル国において子宮頸がんは女性で二番目に多いがんであるが、ヒトパピローマウイルス (HPV) の研究はほとんどされていない。今回の研究は、子宮頸部細胞診で異常のあったモンゴルの女性で、HPVの遺伝子型の頻度を評価し、更に細胞診や患者特徴との関係について横断研究を行った。子宮頸部細胞診異常のあった女性100人から剥離細胞を採取し、細胞診では顕微鏡学的に、HPV遺伝子型はRoche Linear Array testを用いて評価した。100人の参加者で47%にHPVが陽性で、25種類の遺伝子型が検出された。HPV単一感染が32%、複数感染が68%であった。頻度が高いHPV遺伝子型は16, 52, 58, 33型であった。以前にモンゴル国の報告と比較して、感染頻度が高く、遺伝子型の種類も一部は異なる結果を示した。細胞診ではASC-US (軽度病変疑い) 12%、軽度病変 (LSIL) 8%、高度病変 (HSIL) 7%、SCC (扁平上皮がん) 14%、正常59%であった。HPV16型は正常細胞診とSCCで最も多い遺伝子型であった。一方、HPV52型はLSILとHSILで多かった。更に、HPVDNA陽性率と患者特徴との検討では25歳~35歳の女性は他の年齢層に比較してHPV感染率が4.1倍高かった。

本論文は、モンゴル国における子宮頸部細胞診で異常のある女性のHPVの遺伝子型の発現頻度を明らかにし、今後のモンゴル国の子宮頸がん予防の効果的戦略に重要な貢献をすると考え、価値ある論文と認められ、博士 (保健学) の学位に値するものと判定した。

平成31年1月28日

審査委員

主査 群馬大学大学院教授  
生体情報検査学講座 齋藤 貴之 印

副査 群馬大学大学院教授  
生体情報検査学講座 横山 知行 印

副査 群馬大学大学院教授  
生体情報検査学講座 中村 和裕 印

(様式6, 2頁目)

### 最終試験の結果の要旨

研究対象や分析方向について、HPV遺伝子型と細胞診との関連について、および既報と本研究のHPV遺伝子型の違いについて  
試問し満足すべき解答を得た。

平成31年1月28日

### 試験委員

主査	群馬大学大学院教授 生体情報検査学講座	齋藤 貴之 印
副査	群馬大学大学院教授 生体情報検査学講座	横山 知行 印
副査	群馬大学大学院教授 生体情報検査学講座	中村 和裕 印

### 試験科目

研究対象や分析方法について	合・否
HPV遺伝子型と細胞診との関連について	合・否
既報と本研究のHPV遺伝子型の違いについて	合・否